



# 子どもは地域の宝

長かった梅雨もあけ、いよいよよ七月夏本番。子供たちにとっては楽しい夏休みが来ます。

しかし、毎日のように報道される子供たちを標的にした犯罪は後を絶たず、関係者にとっては手放しでは喜べないのではないかと思います。昔から「子は宝」といいますが、もう一度この言葉の重みを社会全体で考える必要があるように思われてなりません。

一個の生命には三十六億年の遺伝子が組み込まれているそうです。犠牲になった子供たちは、生きていたらこの世できっと社会に役立つ人材になっていた事でしょう。親御さんの想いを察すると大変胸が痛みます。心からご冥福をお祈りいたします。

犯罪の種類は大きく分けて物欲による犯罪と心の荒廃から来る犯罪に分けられます。その中でも近年多く見られるのは、社会からの疎外感から来る、妬み、恨みを全て他人のせいにしてしまい犯罪にいたるケースや、注目を集めたかったから等です。その原因のひとつとして、思春期におけるしつけがあるとされます。思春期は第二の誕生とも言われ、精神が誕生する時期とも言われています。この時期に子どもと接するときは「子供を信じぬく心」が肝心だと思います。正常な精神の誕生は幾分か犯罪の防止につながるのではないのでしょうか。しかし、この時期に受験という偏差値を目安に競争に追いつてられ、仲間を思いやる心を失わせ、絶えず他人と比較され、敗れた者は底知れぬ敗北感に挫折し、勝った者は次なる重圧に苦しむという構

造があります。そうした教育の問題点を無視する事は出来ない時期に来ているのではないのでしょうか。

TVのCMでも流れているように、♪近・近・近所の顔なじみ、お話ししよう、話を掛け合ひ育てましよう♪

昔はお隣、近所、どこのだれだれさんまで知っていたと記憶があります。そのせいででしょうか、犯罪もそう多くは無かったと思います。核家族化が進み「隣は何をする人ぞ」という言葉に象徴されるように、他人に無関心の風潮が見受けられます。

私には孫がいて買い物をする時、長田交差点を利用しますが、孫が手を上げて青信号で横断歩道を渡っているときに、無視して通る車には本当に怒りを覚えます。このように、子供たちや社会的弱者を取り巻く環境は危険がいつぱい

です。大事な子供たちを犯罪から守るには、皆で声を掛けあって、犯罪を未然に防ぐ防犯の具体的な取り組みが必要です。夏休みに向け、PTAでも安全パトロールなどが行われますが、地域の方々も子供たちに声をかけてあげて下さい。「子供は地域の宝」です。皆で愛情を持って接していきましょう。



エプロン通信員 城間 ちえみ

茶

ぐわーゆんだく

27



## 交通安全を願う塔

旧伊佐三叉路の角に、色あせた白い塔が建っています。これは「交通安全之塔」で一九六五(昭和四〇)年七月二〇日に、普天間地区交通安全協会

によって建立されました。前年に行われた東京オリンピックの聖火の沖縄通過を記念し、また運転者や歩行者の交通安全の意識高揚を願って、当時、交通量の多かった伊佐三叉路に建てられました。

塔のデザインは、糸満市にある沖繩平和祈念像を制作した山田真山さん、文字は書家の謝花雲石(Shibata)さんで、頂の彫刻はオリンピックにちなんで聖火をかたどり、胸部分には「交通安全之塔」「SAFETY TRAFFIC TOWER」と刻まれています。翌年の建立一周年には関係者が塔前で交通安全祈願を行い、宜野湾・浦添・中城・北中城をパレードしました。



交通安全之塔(2006年)



交通安全の祈願祭(1966年)

「宜野湾市史」への問い合わせ  
教育委員会文化課  
☎八九三ー四四二ー